

千葉県館山市における津波到達位置と神社分布の関係性

市川学園市川高等学校 2年 服部 羽衣

はじめに

東日本大震災の津波は多くの被害をもたらした。しかし、多くの神社が津波を免れていたことから、神社と津波の位置関係に着目した研究が行われ始めている。例えば、高田ほか(2012)は東日本大震災の津波の被害状況と神社の関係を研究し、岩手県旧北上川下流域周辺の神社が津波到達位置付近に建てられていることを明らかにしている。近年では今後発生するとされる南海トラフ地震に関する注目度が高まっており類似する研究(例えば、宇野ほか, 2015; 宇野ほか, 2016)も盛んに行われている。しかし、津波による大きな被害は起きないだろうと思われる関東地域(東京都HP)では、同様の研究は盛んに行われていない。そこで、本研究では東日本大震災の津波を受けていないが、度重なる津波被害を受けた千葉県館山市における神社の津波到達位置と神社分布の関係性を明らかにすることを目的とする。

研究方法

千葉県館山市(図1)にある既存の神社を千葉県宗教法人名簿(千葉県庁HP1)やGoogleマップを用いて、神社の名前、祭神、建立時期で区分し、web地理院地図に沿岸部を含む7つの旧市町村区毎(図1)にプロットする。元禄地震・延宝地震の津波に関しては千葉県が公開している津波浸予測想図のWebサイトで現在の土地へのシュミレーションが公開されており(千葉県庁HP2)、津波浸水予測図を用いてWeb地理院地図と重ねた。



図1 館山市の位置と旧市区町村

結果 館山市の地区毎の元禄地震と延宝地震の関係

館山市の旧市町村区ごとに建立時期、祭神で区分した(図2~図8)。

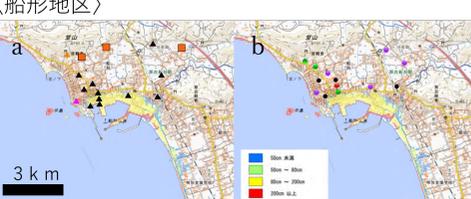


図2 船形地区の関係性



図3 那古地区の関係性

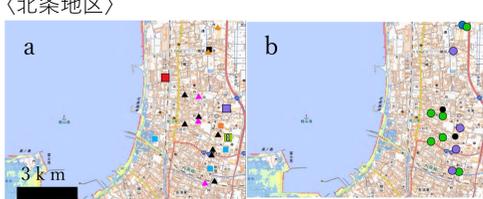


図4 北条地区の関係性

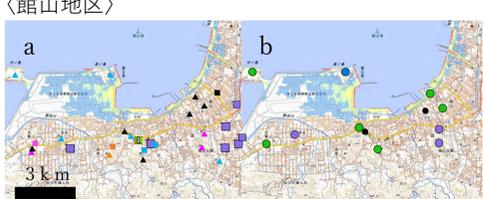


図5 館山地区の関係性

内陸部は**平安時代以前**、沿岸部は**元禄地震後**に建てられた神社が多い(図2a)。 **その他事柄に関する神様**が多いが、**五穀豊穡の神**が多くあり点在している(図2b)。

内陸部は**平安時代以前**、沿岸部は**元禄地震後**に建てられた神社が多い(図3a)。 **その他に関する神と五穀豊穡に関する神**が内陸部にある(図3b)。

内陸部は**安土桃山時代以前**、沿岸部は**元禄地震後**に建てられた神社が多い(図4a)。 **五穀豊穡の神**が多く、内陸部にも沿岸部にもある(図4b)。

内陸部は**元禄地震後**が多く、沿岸部は**安土桃山時代まで**が多い(図5a)。 **五穀豊穡の神と海・漁業**に関する神が沿岸部に多い(図5b)。

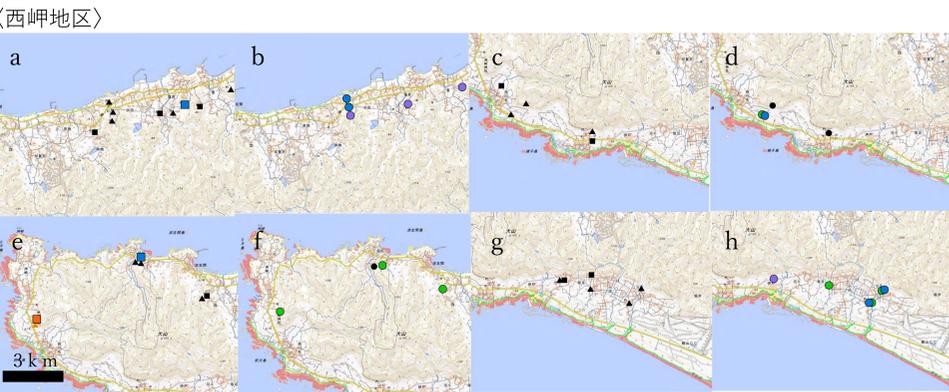


図6 西岬地区の建立時期



図7 神戸地区の関係性



図8 布良地区の関係性

建立時期不明の神社が多く、平安時代前に建てられた神社がある(図6a, c, e, g)。 **その他事柄に関する神様**が多く、**五穀豊穡**、**その他水に関する神**もある(図6b, d, f, h)。

内陸部には**平安時代まで**と**元禄地震後**で、沿岸部は**平安時代まで**に建てられた神社がある(図7a)。 **五穀豊穡の神**が多いが、**水・漁業**に関する神も沿岸部に多くある(図7b)。

沿岸部に**平安時代以前**に建てられた神社がある(図8a)。 **その他の事柄に関する神のみ**の神社がある(図8b)。

【図1~図8の凡例】
 ●：海・漁業に関する神様 ●：水・農業に関する神様 ●：その他の事柄に関する神様 ●：その他水に関する神様
 ●：不明 ●：不明 ●：不明 ●：不明
 黄緑線：延宝地震の津波浸水域 緑線：元禄地震の津波浸水域
 ▲：～平安時代 ▲：鎌倉時代～安土桃山時代 ▲：江戸時代前半(元禄地震前) ▲：江戸時代後半(元禄地震後)～関東大震災前 ▲：関東大震災後～ ▲：不明 □：寺院

考察1 寺院と津波の関係

神戸地区では**寺院の蓮寿院が神社に代わって津波到達位置付近に建てられていた**(図9)。蓮寿院は1714年に村の伊右衛門という人が願い出て元禄地震の津波の跡地に村の寺として再建されたものである(館山博物館HP)。寺院が津波到達位置と一致することを検証した先行研究はないので、この特徴が館山市特有のものかどうかを検証するために、東北地方においての寺院と津波の関係性を調べた(図10, 11)。その結果、**東北地方でも寺院が津波浸水域付近にあることがわかった**。加えて、館山市web版防災マップで公開されている南海トラフ浸水域の航空写真をもとに、神社と津波浸水域について検証した。その結果、本堂・墓ともに津波の被害を免れる位置にあり、津波に1番近いのは本堂であった。よって、蓮寿院は津波に対して**安全な場所を示していると考えられる**。

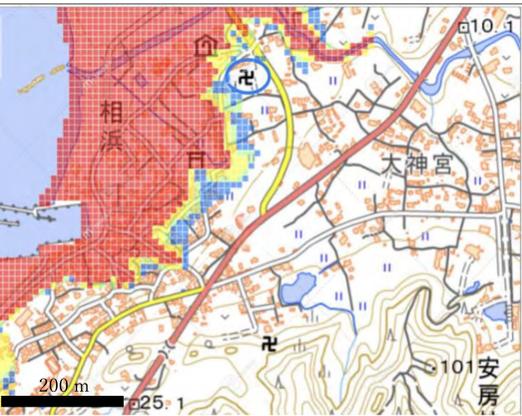


図9 蓮寿院の位置



図10 宮城県泉気仙沼周辺の寺院と東北地方太平洋沖地震の関係



図11 宮城県北北上川下流域の寺院と東北地方太平洋沖地震の関係

考察2 津波浸水域外から内に移された神社

神戸地区の相浜神社はもともと感満寺であり、1918年に梶取神社と政府が明治時代末期に行った神社合祀の政策によって、合祀して相浜神社となった(図12; 館山博物館HP)。梶取神社は元禄地震津波浸水域よりも内陸部にあり、津波による被害を受けていない(図12)。これらのことから、**江戸時代以降に建てられた神社であっても、合祀して津波浸水域内に建てられてしまう可能性も考えられる**。

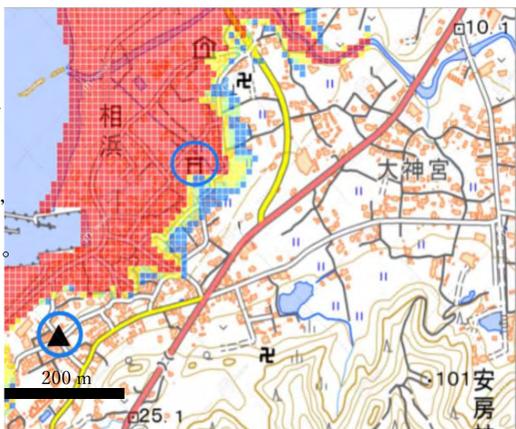


図12 相浜神社の位置

考察3 津波浸水域内に入っている神社

調査地域の中で元禄地震津波浸水域に入った神社・寺院は船形地区の下諏訪大明神・弁財天(図13)、神戸地区の弁天神社・神社・相浜神社であった。船形地区は**いずれも高台に建てたとは考えづらく津波と関連づけて建てた可能性があるとは言えない**。神戸地区も同様に高台に建てたとは考えづらく、津波と関連づけて建てた可能性は低い。



図13 船形地区の津波浸水域内の神社

考察4 延宝地震と元禄地震の検証

延宝地震では元禄地震のように津波浸水域と神社は一致しなかった。これらのことから、館山市はどの地区も元禄地震を基準に建てられていることがわかった。

考察5 ハザードマップとの検証

津波浸水域内に入っていない神社は南海トラフ地震津波想定ハザードマップで一時避難場所になっていることから、神社は避難の目印となる(図14)。



図14 船形地区のハザードマップ

結論

千葉県館山市では地区毎に特徴が異なり、船形地区では神社は過去に津波が来た位置を示しており、津波に対して避難の指標となる一方、神戸地区では寺は過去の津波の位置を表しており、避難の指標となるが、大正時代以降に建てられた一部の神社は津波と関連づけて建てられていないため、避難の指標とはならないと考えられる。また、一部の寺院も同様に大正時代以降に建てられたものは津波と関連づけて建立していないため、避難の指標とならないと考えられる。千葉県館山市では、元禄地震をもとに神社が建てられた可能性が高い。

【引用文献】千葉県庁HP1, 千葉県庁 (2024-3-10閲覧); 千葉県庁HP2, 津波浸水予図 (2023-4-14閲覧); 国土地理院, 地理院地図HP (2023-6-15閲覧); 高田ほか, 2012, 土木学会論文集, 68, p.167-174.; 館山市HP, 館山市役所 (2023-12-1閲覧); 館山市立博物館HP, 館山フィールドミュージアム (2023-4-30閲覧); 東京都HP, 東京都防災 (2023年9月23閲覧); 宇野ほか, 2015, 海洋開発論文集, 31, p.677-682; 宇野ほか, 2016, 土木学会論文集B2 (海岸工学), 72, 1609-1614.